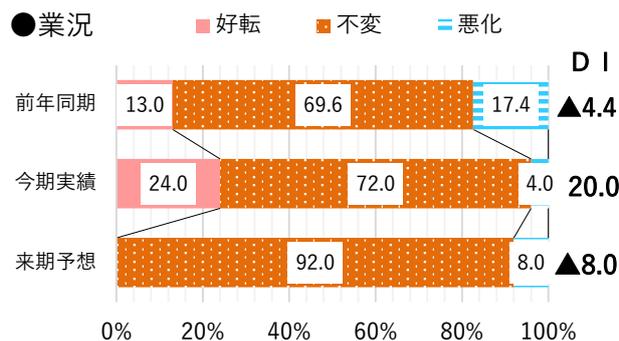


建設業

業況、売上、採算

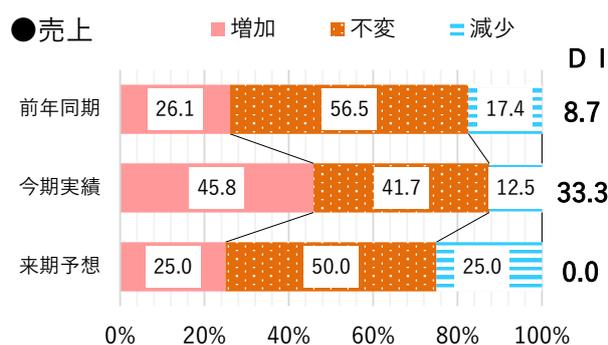
今期（2024.10～12）の業況判断DIは20.0で、前年同期(2023.10～12)と比べ24.4ポイント上昇しプラスに転じました。

来期（2025.1～3）は、業況がマイナスに転じると予想しています。



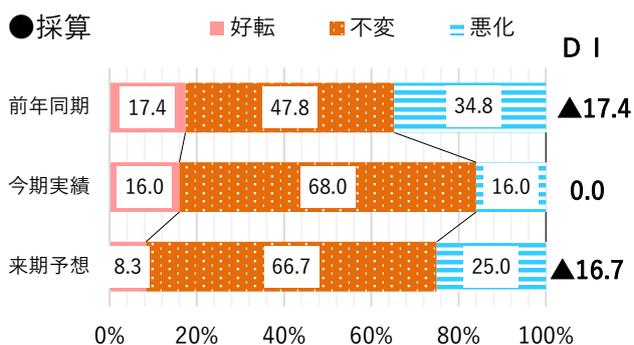
今期の売上高DIは33.3で、前年同期と比べ24.6ポイント上昇しました。

来期は、売上の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。

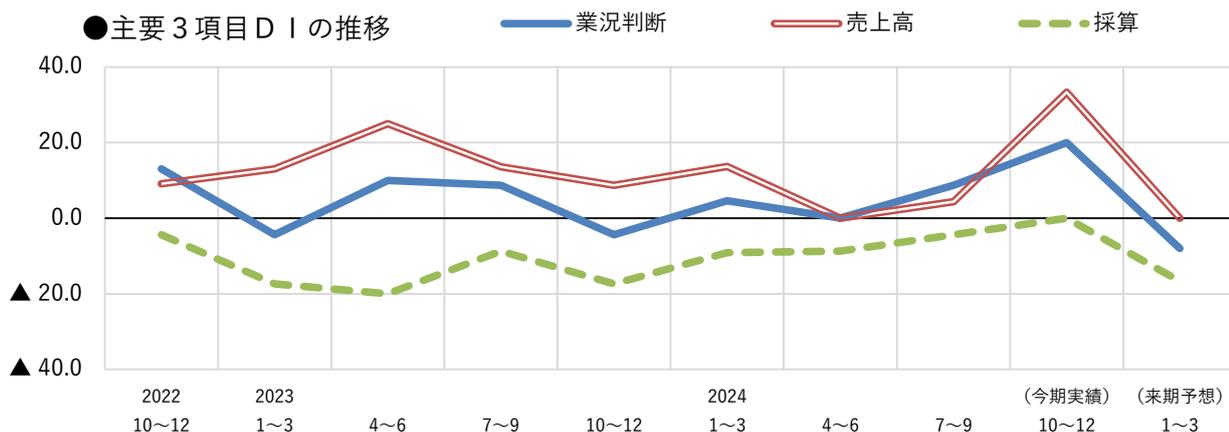


今期の採算DIは0.0で、前年同期と比べ17.4ポイント上昇しました。

来期は、採算がマイナスに転じると予想しています。



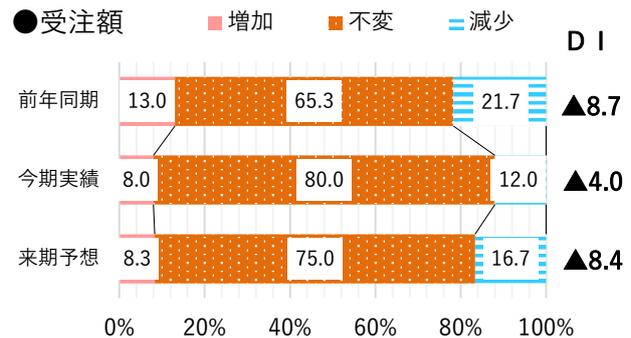
●主要3項目DIの推移



受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

今期の受注額DIは▲4.0で、前年同期と比べ4.7ポイント上昇しました。

来期は、受注額の減少傾向が続くと予想しています。



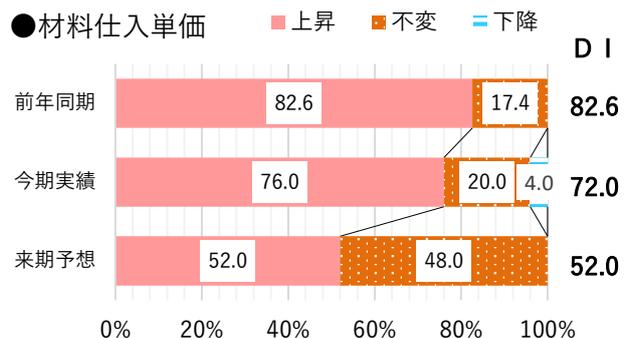
今期の契約残DIは12.0で、前年同期と比べ1.1ポイント低下しました。

来期は、契約残の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の材料仕入単価DIは72.0で、前年同期と比べ10.6ポイント低下しました。

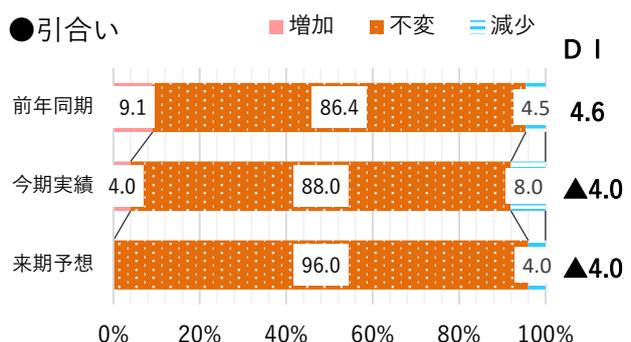
来期は、材料仕入単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲4.0で、前年同期と比べ8.6ポイント低下し、マイナスに転じました。

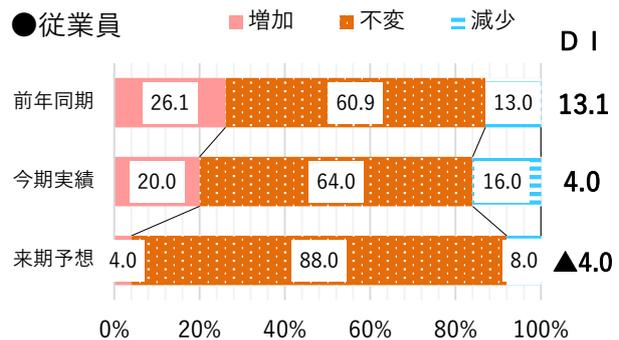
来期は、引合いの横ばいを予想しています。



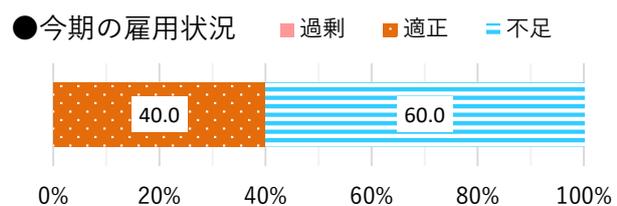
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは4.0で、前年同期と比べ9.1ポイント低下しました。

来期は、従業員数がマイナスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は40.0%、不足していると回答した企業の割合は60.0%でした。



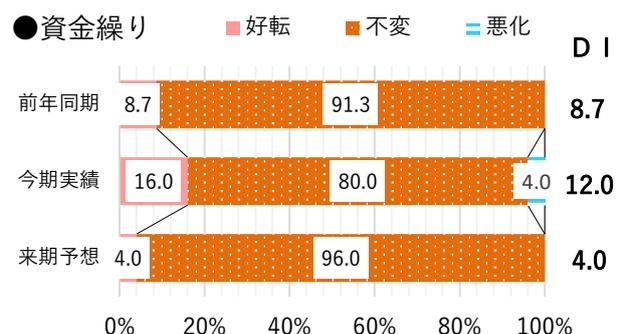
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答で、40.0%を占めました。回答全体では、60.0%が従業員不足と回答しています。

従業員数変化	雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	3
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	6
	不足	10
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	3

資金繰り、設備投資

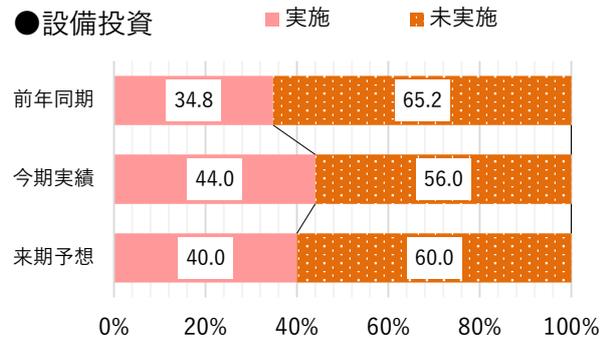
今期の資金繰りDIは12.0で、前年同期と比べ3.3ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りに大きな変化はないと予想しています。



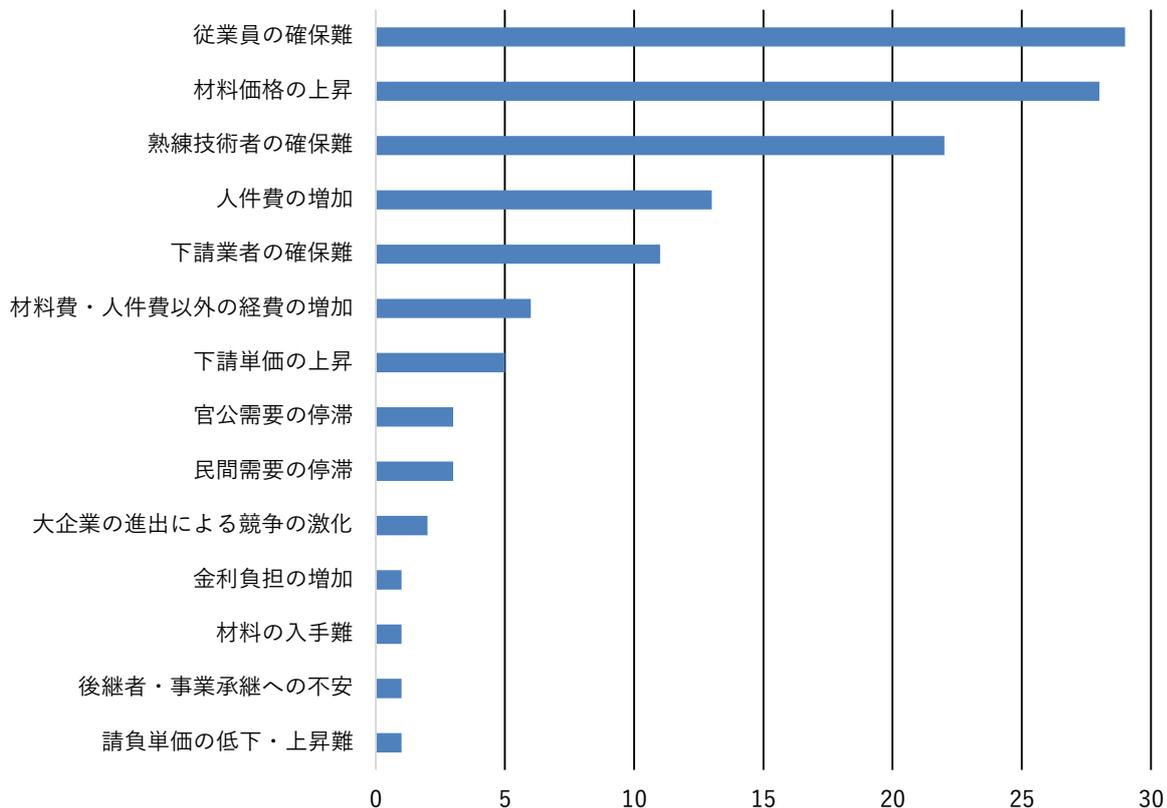
設備投資を実施した企業の割合は44.0%で、前年同期と比べ9.2%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「OA機器」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は40.0%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「材料価格の上昇」、3位が「熟練技術者の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 年度にまたがる工事が複数あることで利益が分散し、今期の利益確保が厳しい。(一般土木工事業)
- 売上が増加した。仕入価格は上昇したが、ある程度価格転嫁できている。(一般土木工事業)
- 支払手形の決済期間が短縮され、資金繰りが悪化した。(一般土木工事業)
- 売上は10%増加したが、人材確保に苦勞した。(一般土木工事業)
- 人材不足が続いており、改善の見込みはない。(一般土木工事業)

- 受注が順調に推移した。（一般土木工事業）
- 人材不足が課題だ。（一般土木工事業）
- 売上が増加した。（一般土木工事業）
- 当期の業況は決して悪くないが、前期がとても好調だったため相対的に悪化と判断する。利益を確保した上で受注を継続できている。（一般管工事業）
- 株価が上昇した。人手不足の状況は変わらない。（設備工事業）
- 売上が増加したが、材料単価が高く、利益が少ない。（職別工事業）
- 売上は若干の増加だが、想定外の設備投資などがあり、トータルでは前期と変わらない。（造園業）
- 市役所からの受注数は不変だった。（造園業）
- 前年度比であまり変わりはないが、年明けに2名ほど採用を予定している。（電気工事業）

[来期の業況について]

- 民間工事の受注を増やし、利益を確保したい。衆議院選挙による受注減を懸念する。（一般土木工事業）
- まだ予定は分からないが、例年規模の受注を見込む。（一般土木工事業）
- 受注件数の確保が難しく、厳しい状況を予想する。（一般土木工事業）
- 人材不足の状況が続く。（一般土木工事業）
- 人材不足が課題だ。（一般土木工事業）
- 当期と変わらない受注状況が予想される。（一般管工事業）
- 受注の減少を見込む。（設備工事業）
- 冬期はアルミサッシの工事がほぼないため、売上は減少する。（職別工事業）
- 受注数は変わらないと思われる。（造園業）